

令和三年 新春訓示

昨年2020年はどんな年でしたでしょうか。毎年恒例の日本漢字能力検定協会[R2.12.14]が行う1年を振り返り世相を表す漢字一字は、『蜜』でした。小池都知事の3蜜もありましたが、選んだ理由には、「**密には、親しむという意味が含まれていて、物理的には離れているが、心はしっかりしたつながりを持っていきたい**」という願いも込めてだそうです。世界中が新型コロナウイルス感染症流行の影響を受けた一年でした。

さて、昨年、新春訓示で申し上げたことを思い出してほしいのですが、2020年は**庚子(かのえ・ね)子の年**は、干支でいえばスタートの年で、**種子の中に新しい生命がきざし始める年、価値観ががらりと大きく変わっていく年、変革し未来に進んでいく年**と申し上げました。まさしく、社会が急速にデジタル化へと変革の第一歩が始まった年になりました。

そして、今までのように安穏としておれない将来の状態を予測し、しっかりと計画を立て実行していかなければならない時代が来ているとも申しあげました。

そのためにも、去年の新年の挨拶では、

- ① **過去の慣習にとらわれず、施設理念に沿った「明るく、思いやりのある、家庭的なケアの実践」に向けて弛まず質(=サービス)の向上を目指して変革していただきたい。**
- ② **元号『令和』の「和」を重んじていただきたい。チームワークやエンゲージメント(愛着心)の強化**
- ③ **仕事の仕方「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」の実践、徹底した理念「明るく、思いやりのある、家庭的なケアの実践」の追求 まずは挨拶の徹底から**
を提唱いたしました。皆さんできたでしょうか。

さて、今年は、「**辛(かのと)丑年**」です。^{かのと}辛の年は辛い「**余分なものを取り除いて、新しい輝きに向けて進む**」という「革新」の流れがあり、「丑(うし)」は、殻を破るしっかり基礎を作り、足固めをして発展して行くための方法を色々と模索しながら ^{つか}掴んで行くような流れを持つ年と言われています。

まだまだ、コロナも、経済不況もしばらく続きそうですが、これに伴う社会の改革は2021年から2023年ころまで続きそうです。今までの**価値観、土地への信頼、常識が強引なまでに変更を強いられる一年**になりそうです。

さらに、貧富の差のさらなる拡大、ベーシックインカム(=政府がすべての国民に対して一定の現金を定期的に支給するという政策)の導入論議、預金封鎖(=銀行預金などの金融資産の引き出しを制限すること)の可能性、大災害、戦争など備えておく必要があります。世界は保守化へと進みます。

それでは、新年迎えるに当たって、前年申し上げた3つのことは継続しつつ、更に今年も3つのことを念頭に置き、**自ら考え取り組んでいって欲しい**と思います。

① **ピンチをチャンスに変える“プラス思考”**

これからの世の中は前進しにくい停滞ムードになる恐れがあります。したがって、壊れたもの、失ったことをきっかけとし新しい何かを始める再構築の年にするということです。

② テクノロジー進化に伴う情報収集と選択（適正なチェック）と危機管理

ますます変化の時代を迎え、様々な情報に不安や疑問を感じる中、迫りくる高齢化社会や来る災害などに向けた備えを着実に計画しておくことです。

③ 人の結びつきを大事にする（人間関係を見直す）

自分が口にする言葉の影響力を喜にするだけでなく、人から言われた言葉に色々ヒントが有ることを意識して聴いたり、あるいは、友人や家族だけでなく、ライフラインの連絡網なんかも整えてみる。

以上、**申し上げたことを充分理解し、附に落として**新しい年の楽々苑の施設運営を共にしていきましょう！

以 上